６．防災公共推進計画

本章より、各市町村の地区ごとの検討結果について掲載する。各地区の検討結果について、共通事項を下記に述べる。

①用語の意味について

この計画において、使用する用語の意味等は下記のとおりとする。

用語	用語の意味等
避難場所（※1）	災害によって短期間の避難生活を余儀なくされた場合に、一定期間の避難生活を行う施設。
避難目標地点	津波の危険から避難するために、津波浸水想定区域の外に定める場所をいう。とりあえず生命の安全を確保するために避難の目標とする地点。
防災拠点	災害時に防災活動の拠点となる施設や場所のことで、県庁舎や各市町村の市役所・役場、警察署、消防署、救急告示病院、空港、港湾、鉄道駅前広場、大規模市場等がある
津波浸水想定区域（※2）	青森県において公表した最大クラスの津波(レベル2津波)による想定浸水区域と、比較的発生頻度の高い津波（レベル1津波）による想定浸水区域を重ね合わせた区域。
危険区域	土砂災害特別警戒区域、警戒区域 （急傾斜地崩壊危険箇所、土石流危険渓流、地すべり危険箇所）
危険箇所	・耐震対策が未実施な橋梁 ・河川改修計画断面に適合していない橋梁 ・道路防災点検による要対策箇所 ・土砂災害特別警戒区域、警戒区域 （急傾斜地崩壊危険箇所、土石流危険渓流、地すべり危険箇所） ・山腹崩壊危険地区 ・地すべり危険地区・箇所 ・崩壊土砂流出危険地区

※１　平成 25 年 6 月の災害対策基本法改正において、災害時における緊急の「避難場所」と、一定期間滞在して避難生活をする「避難所」とが区別されているが、本計画では、これらを区別することなく「避難場所」と定義している。

※２　津波浸水想定区域の基となった津波シミュレーションは 10m メッシュ地形データを用いた計算結果によるものであり、部分的な地形の凹凸、幅の狭い河川・水路等のデータが反映されない等のため、浸水域が異なる場合がある。

②地区名について

孤立する恐れのある集落・避難場所を有する地区や津波浸水想定区域を有する地区については、地区名を掲載している。地区名の隣に括弧書きでその地区の抱える課題について掲載している。

・孤立・・・・孤立する恐れのある集落・避難場所を有する地区を意味する

・津波浸水想定区域・・・津波浸水想定区域を有する地区を意味する

※防災拠点である役場までの道路交通が分断される恐れのあることを孤立と定義

③災害の想定について

避難場所や避難経路を検証する上で、災害を想定する必要があるが、本計画書を策定するに当たり、起こりえる最大の自然災害を想定した。例えば海岸線を有する地区においては、大雨災害・津波災害が同時に起こり、土砂崩れや津波浸水が起こることを想定した。

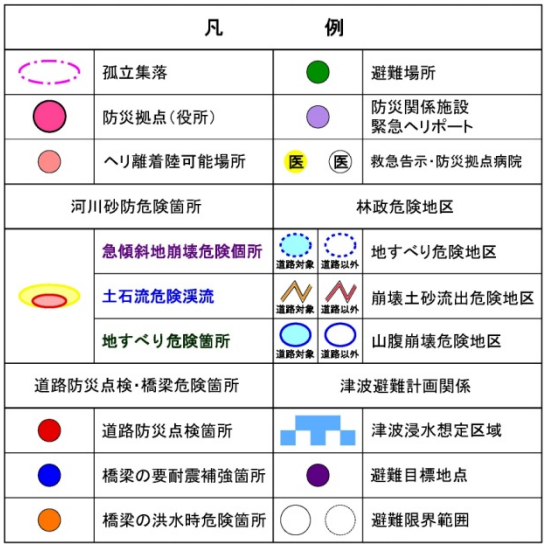
④孤立した際の物資の輸送手段について

災害時には、避難場所へ住民は避難するため、孤立した際は、避難場所と外部で物資の輸送が可能となることが必要である。このため、避難場所と臨時ヘリポートや漁港が安全にアクセス可能かを検証した。（避難場所は孤立しないが、人家のみが孤立する場合は、人家とのアクセスについて検証）

⑤検討地区の図面について

図面には、防災拠点（役場や支所）や市町村の地域防災計画に記載されている避難場所、各種危険箇所、避難場所・防災拠点までの避難経路等を掲載している。県民局ワーキングでは、避難場所・避難経路の検証を行い、必要な対策について抽出している。

抽出方法は、避難場所・避難経路に影響を及ぼす危険箇所について、現状の斜面状況を P25 のとおり調査し、必要な対策について設定している。具体的な例を次項に示す。



▲図面に掲載している情報

（２１）野辺地町

１）概要

野辺地町は、むつ湾沿岸に町が形成されており、町中心部に危険箇所が集中しているが、対策済の箇所が多く、町を囲むように道路網も充実しているため、孤立する恐れのある集落・避難場所はない。

また、役場から、上北地域の防災拠点が集積する十和田市とは、国道２７９号、国道４号によって連結されているが、この路線には危険箇所は無く、道路が分断される恐れはない。

しかし、津波浸水予測図によると、漁港など一部の海岸地域において、津波による浸水が予測されている。また、洪水ハザードマップを見ると、野辺地川、枇杷野川周辺が河川氾濫区域となっており、洪水時に浸水する恐れがある。

以上のような課題があるため、野辺地町では、津波による浸水が予測される地区、洪水による浸水が予測される地区の全６地区において検討を行った。

２）避難の前提条件

○洪水による浸水区域について

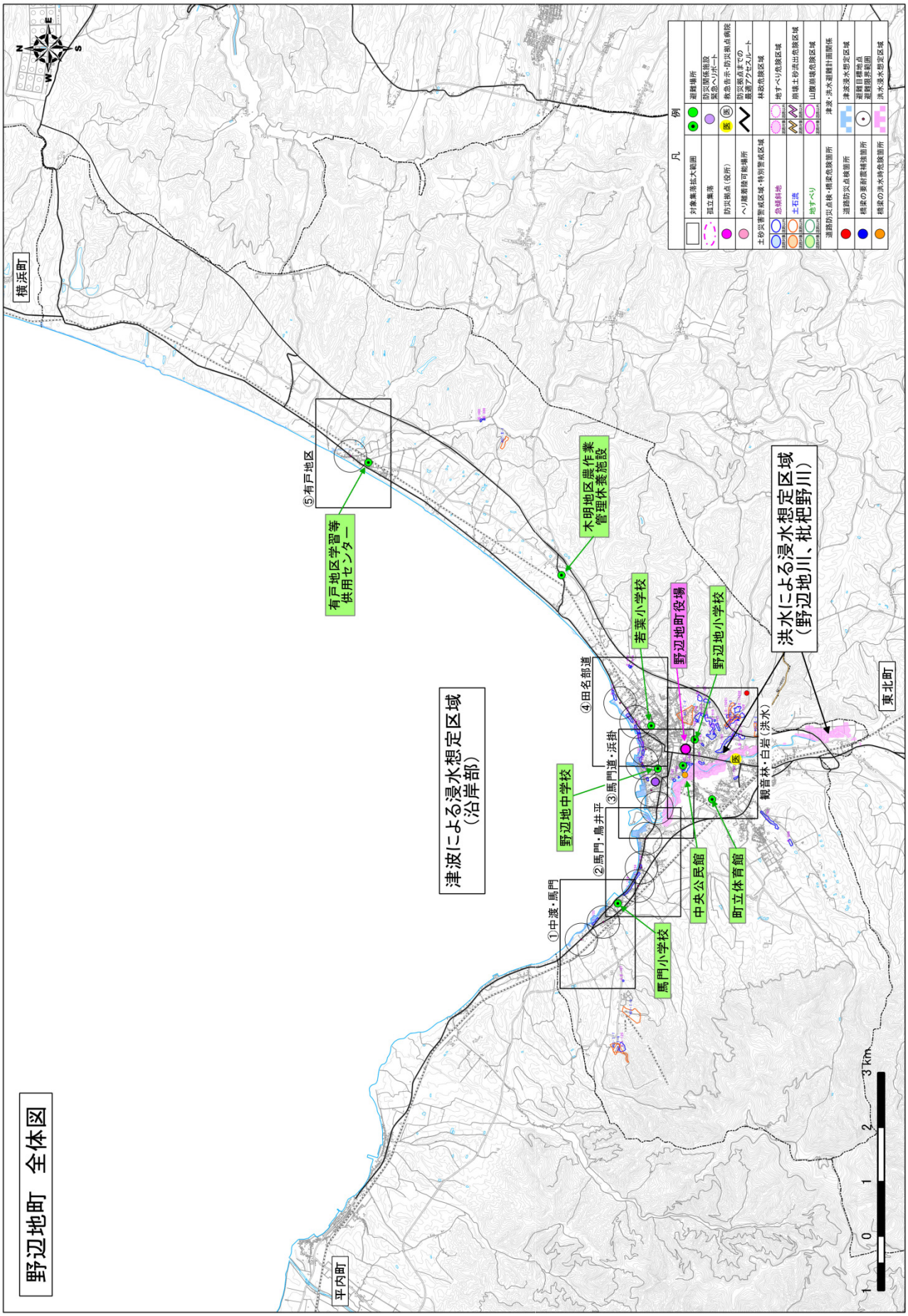
野辺地川水系野辺地川、野辺地川水系枇杷野川の洪水予報区間について下記の通り浸水区域を算出した。

・野辺地川、枇杷野川の河道の整備状況を勘案して、洪水防御に関する計画の基本となる概ね５０年に１回程度起こる大雨（※１）が降った場合を想定。
ただし、支川のはん濫、想定を超える降雨、高潮、内水によるはん濫などを考慮していない。

（※１）概ね５０年に１回程度起こる大雨
流域の２日雨量　２１０㎜

○津波避難計画について

津波に対する避難を考慮するため、野辺地町においては、下記の条件を前提とした。


野辺地町　全体図
横浜町
平内町
東北町
津波による浸水想定区域
（沿岸部）
洪水による浸水想定区域
（野辺地川、枇杷野川）
①中渡・馬門
②馬門・鳥井平
③馬門道・浜掛
④田名部道
⑤有戸地区
有戸地区学習等
供用センター
木明地区農作業
管理休養施設
野辺地中学校
馬門小学校
若葉小学校
野辺地町役場
野辺地小学校
中央公民館
町立体育館
観音林・白岩（洪水）
凡例
対象集落拡大範囲
孤立集落
防災拠点（区所）
ヘリ離着陸可能場所
避難場所
防災関係施設
緊急ヘリポート
救急告示・防災拠点病院
防災拠点までの
最寄アクセスルート
土砂災害警戒区域・特別警戒区域
急傾斜地
土石流
地すべり
林政危険区域
地すべり危険区域
崩壊土砂流出危険区域
山腹崩壊危険区域
道路防災点検・橋梁危険箇所
道路防災点検箇所
橋梁の重荷重補強箇所
橋梁の洪水時危険箇所
津波・洪水避難計画関係
津波浸水想定区域
避難目標地点
避難誘導範囲
洪水浸水想定区域
0
1
2
3 km

▲野辺地町の検討地区

・津波到達予想時間について

1．避難勧告、避難指示の発令を考慮し、陸地部、海岸部と区別せずに、±20cm の早い方の時間を津波到達予想時間とした。

2．L1 津波については、施設がすべて整備されていないことから、浸水を考慮し、L2、L1 津波の到達予想時間で、かつ町内の各地点で最短の時間を設定。

市町村	代表地点	L2津波			L1津波						
		想定地震	津波伝搬時間 +20cm	津波伝搬時間 -20cm	想定地震	第一波		最大波（第二波以降）		津波伝搬時間 +20cm	津波伝搬時間 -20cm
						最大水位	到達時間	最大水位	到達時間		
野辺地町	有戸		L2津波検討対象外		H24青森県太平洋側想定地震	1.6m	182分	第一波が最大	同左	72分	229分
野辺地町	明前				H24青森県太平洋側想定地震	1.6m	179分	第一波が最大	同左	73分	231分
野辺地町	木明				H24青森県太平洋側想定地震	1.7m	178分	第一波が最大	同左	71分	227分
野辺地町	米内沢				H24青森県太平洋側想定地震	1.7m	182分	第一波が最大	同左	71分	226分
野辺地町	馬門				H24青森県太平洋側想定地震	1.7m	177分	第一波が最大	同左	124分	233分

▲野辺地町の代表地点における津波伝播時間

・避難方法について

原則、徒歩とする（歩行速度 1.0m/S を活用）

・避難可能時間及び可能距離について

避難可能時間　71 分-2 分（避難開始時間）=69 分　（4,140 秒）

避難可能距離 1.0m/秒×4,140 秒=4,140m

津波到達前に 4,140m の避難が可能であるが、徒歩避難を考慮し、「市町村における津波避難計画策定指針」に記載されている避難限界距離 500m を使用する。

避難する際は、直線的に移動可能ではないため、移動距離を求めるため補正する。移動距離と直線距離の比は、避難実態調査結果（※）より、徒歩・自動車とも 1.5 とする。

※国土交通省都市局「津波避難を想定した避難路、避難施設の配置及び避難誘導について（改訂）」（平成 24 年 12 月）

半径Ｌ　＝　避難可能距離　／　１．５（移動距離と直線距離の比）

避難可能範囲　半径 L=500m/1.5≒300m の円で表示

３）各地区の検討内容

●洪水により浸水が予測される地区

避難場所となる中央公民館、町民体育センター、野辺地小学校は、洪水による浸水区域及び土砂災害の危険区域外に立地しており、最適な避難場所が確保されている。

中央公民館への避難経路は、川を渡る必要があるが、南側に行くよりも浸水区域を通る距離が短いため、この経路の方が危険性が低い。また、野辺地川にかかる城内橋は、洪水時にける流下能力の確保されていない橋となっているため、避難時の注意は必要だが、補修工事がされており構造的には対策不要としている。

町立体育館、野辺地小学校への避難経路には危険箇所はなく、避難経路は確保されている。

●津波による浸水が予測される地区

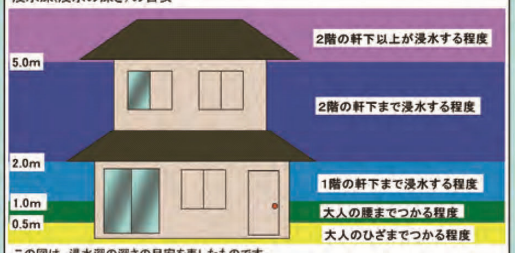
次項より、各地区の検討及び施策の内容について掲載する。

野辺地町洪水ハザードマップ

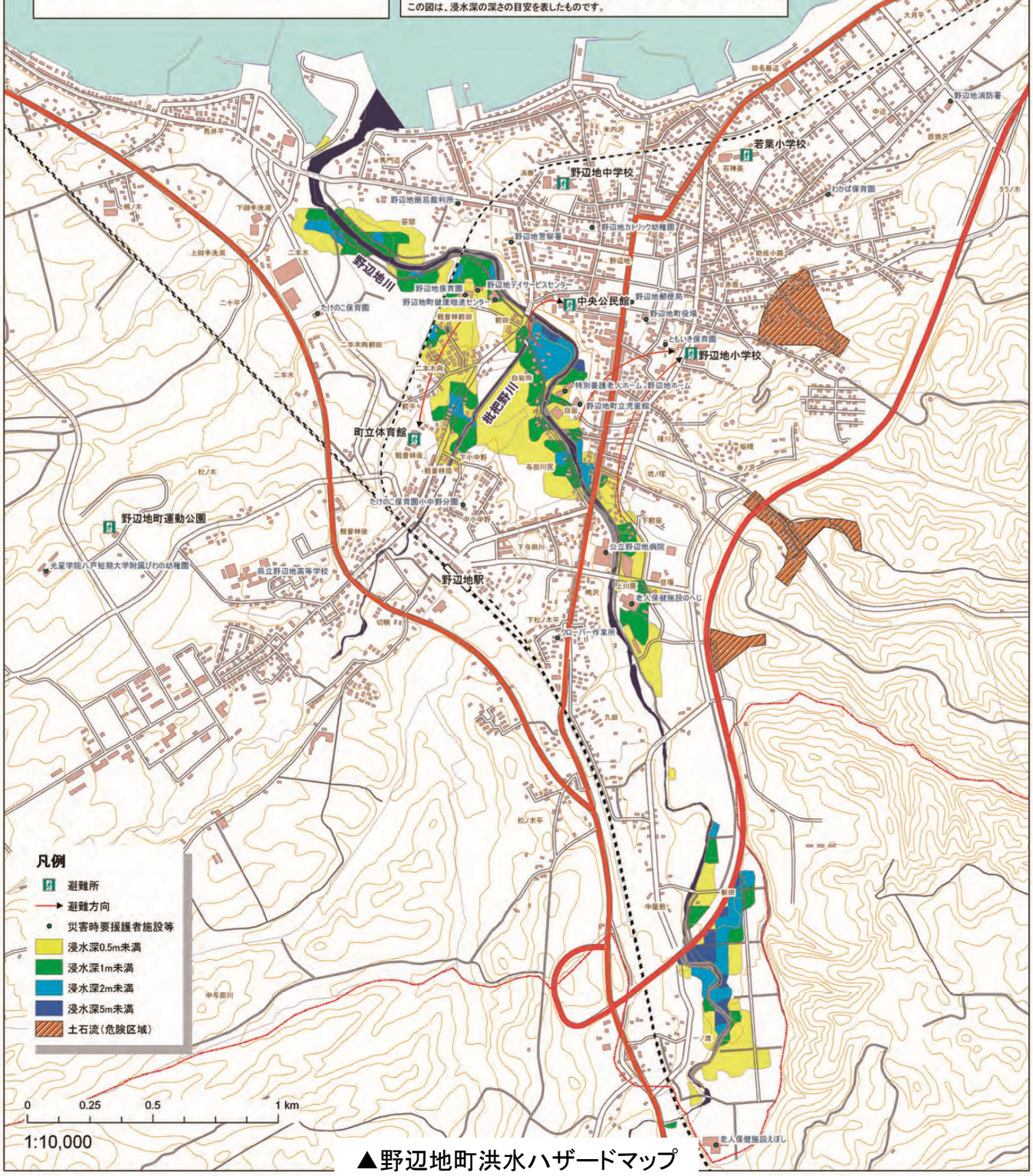
■このハザードマップは、野辺地川、枇杷野川が概ね50年に1回程度起こる大雨（2日間雨量210mm）により増水し、堤防からあふれたり、堤防が壊れた場合に浸水する深さを示しています。
■水害が発生した際には、町や報道機関からの避難準備情報、避難勧告・指示等に注意するとともに、早めの自主避難を心がけてください。
■状況によっては、水はけが悪い場所の浸水や小河川・水路のはん濫、がけ崩れや土石流が先行し発生する場合がありますので、注意してください。

野辺地町総務課　野辺地町字野辺地123-1
TEL　0175－64－2111
ホームページアドレス：http://www.town.noheji.aomori.jp

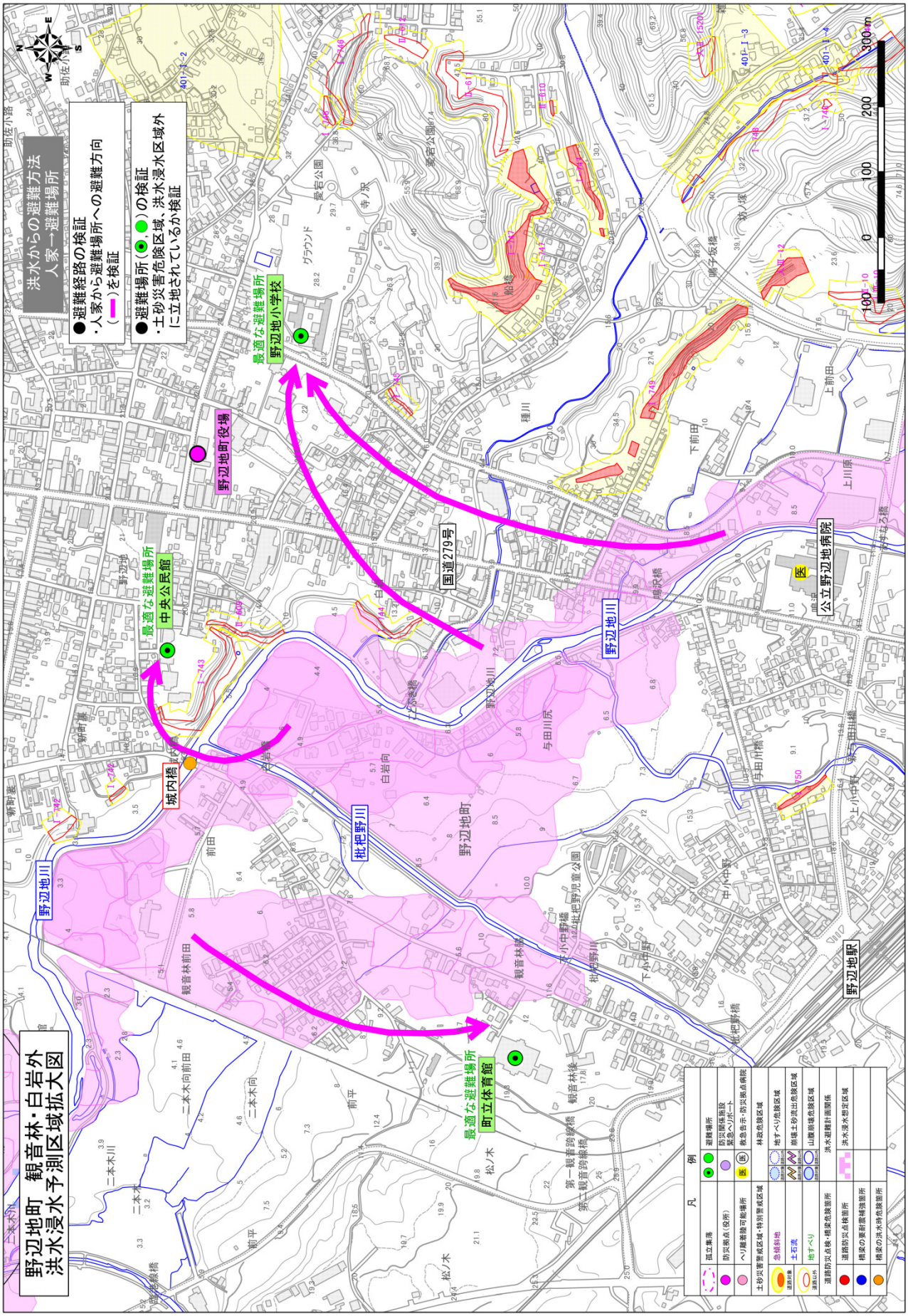
浸水深（浸水の深さ）の目安



この図は、浸水深の深さの目安を表したものです。



▲野辺地町洪水ハザードマップ



▲洪水による浸水が予測される地区の検討結果

①中渡・馬門外地区（津波浸水想定区域）

最適な避難場所の確保

●馬門小学校は危険区域外及び津波浸水区域外に立地しており安全

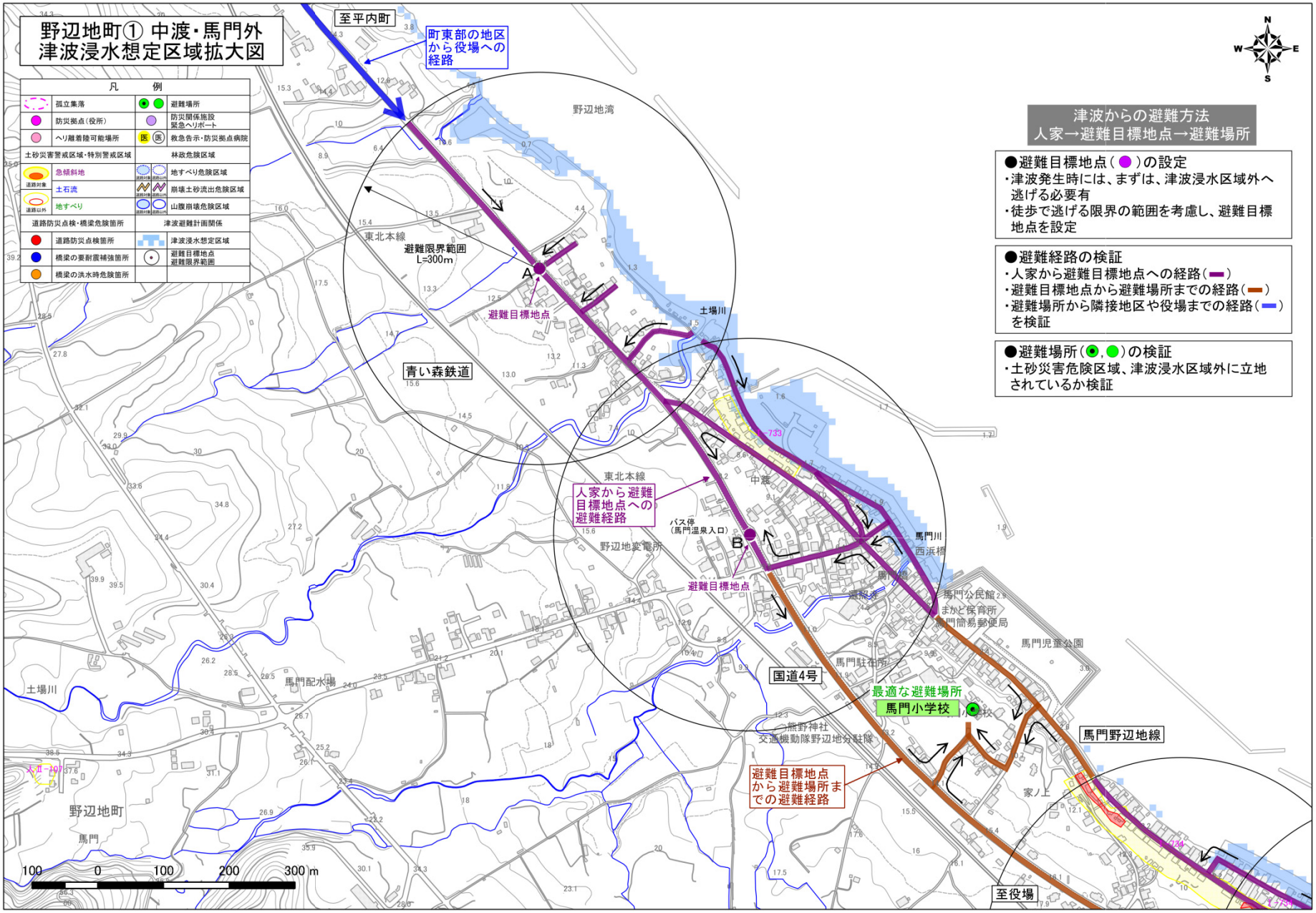
➡ 馬門小学校は避難場所として適正

最適な避難経路の確保（津波発生時の避難経路）

●避難目標地点への経路
- 避難目標地点を2箇所設定
- 避難目標地点までの経路上に1箇所危険箇所があるが、対策済

●避難目標地点から避難場所への経路
- 馬門小学校への経路上に危険箇所はない

➡ 避難経路は確保されている


野辺地町① 中渡・馬門外
津波浸水想定区域拡大図
凡　例
孤立集落
防災拠点（役所）
ヘリ離着陸可能場所
避難場所
防災関係施設
緊急ヘリポート
救急告示・防災拠点病院
土砂災害警戒区域・特別警戒区域
急傾斜地
土石流
地すべり
林政危険区域
地すべり危険区域
崩壊土砂流出危険区域
山腹崩壊危険区域
道路防災点検・橋梁危険箇所
道路防災点検箇所
橋梁の要耐震補強箇所
橋梁の洪水時危険箇所
津波避難計画関係
津波浸水想定区域
避難目標地点
避難限界範囲
至平内町
町東部の地区
から役場への
経路
野辺地湾
東北本線
避難限界範囲
L=300m
A
避難目標地点
土場川
青い森鉄道
人家から避難
目標地点への
避難経路
バス停
（馬門温泉入口）
B
避難目標地点
野辺地変電所
中渡
馬門川
西浜橋
馬門公民館
まかど保育所
馬門簡易郵便局
馬門児童公園
馬門駐在所
国道4号
最適な避難場所
馬門小学校
熊野神社
交通機動隊野辺地分駐隊
馬門野辺地線
避難目標地点
から避難場所ま
での避難経路
家ノ上
至役場
馬門配水場
野辺地町
馬門
100 0 100 200 300 m
N
S
W
E
津波からの避難方法
人家→避難目標地点→避難場所
●避難目標地点（●）の設定
・津波発生時には、まずは、津波浸水区域外へ逃げる必要有
・徒歩で逃げる限界の範囲を考慮し、避難目標地点を設定
●避難経路の検証
・人家から避難目標地点への経路（▬）
・避難目標地点から避難場所までの経路（▬）
・避難場所から隣接地区や役場までの経路（▬）を検証
●避難場所（●,●）の検証
・土砂災害危険区域、津波浸水区域外に立地されているか検証

②馬門・鳥井平外地区（津波浸水想定区域）

最適な避難場所の確保

●馬門小学校は危険区域外及び津波浸水区域外に立地しており安全

➡ 馬門小学校は避難場所として適正

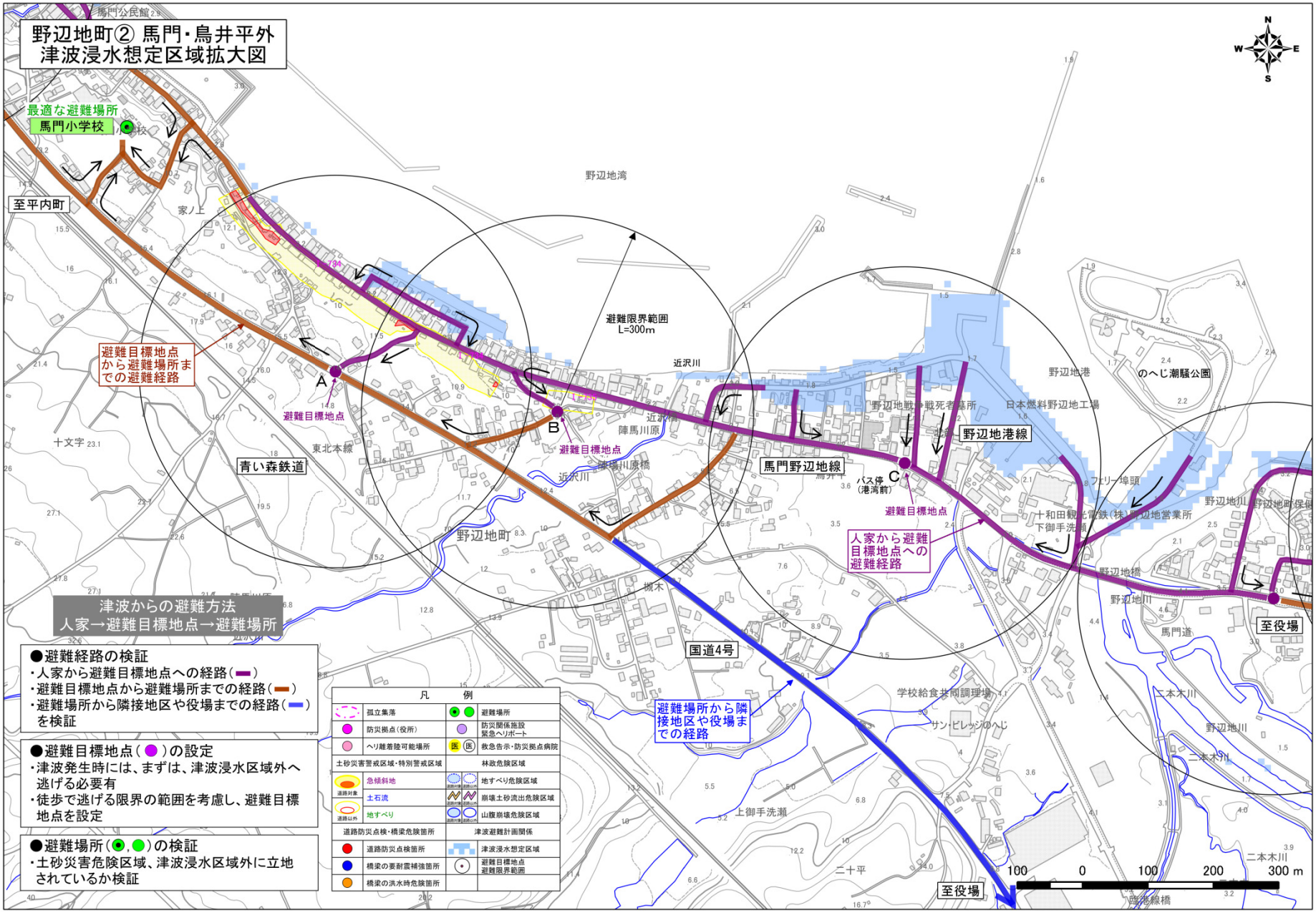
最適な避難経路の確保（津波発生時の避難経路）

●避難目標地点への経路
- 避難目標地点を3箇所設定
- 避難目標地点までの経路上に箇所危険箇所があるが対策済、または迂回可能

●避難目標地点から避難場所への経路
- 馬門小学校への経路上に危険箇所はない

➡ 避難経路は確保されている

※「のへじ潮騒公園」が避難限界範囲(300m)に含まれていないが、野辺地町の津波到達予想時間である71分で避難可能な範囲(2700m)を考慮すると、十分、避難目標地点への避難が可能である。



野辺地町② 馬門・鳥井平外
津波浸水想定区域拡大図
最適な避難場所
馬門小学校
至平内町
避難目標地点から避難場所までの避難経路
避難目標地点
青い森鉄道
野辺地町
避難限界範囲
L=300m
近沢川
陣馬川原
陣場川原橋
馬門野辺地線
野辺地港線
野辺地港
のへじ潮騒公園
日本燃料野辺地工場
野辺地戦争戦死者墓所
人家から避難目標地点への避難経路
国道4号
避難場所から隣接地区や役場までの経路
至役場
野辺地川
馬門道
二本木川
学校給食共同調理場
サン・ビレッジのへじ
上御手洗瀬
二十平
津波からの避難方法
人家→避難目標地点→避難場所
●避難経路の検証
・人家から避難目標地点への経路（▬）
・避難目標地点から避難場所までの経路（▬）
・避難場所から隣接地区や役場までの経路（▬）を検証
●避難目標地点（●）の設定
・津波発生時には、まずは、津波浸水区域外へ逃げる必要有
・徒歩で逃げる限界の範囲を考慮し、避難目標地点を設定
●避難場所（◉,●）の検証
・土砂災害危険区域、津波浸水区域外に立地されているか検証
凡例
孤立集落
避難場所
防災拠点（役所）
防災関係施設 緊急ヘリポート
ヘリ離着陸可能場所
救急告示・防災拠点病院
土砂災害警戒区域・特別警戒区域
林政危険区域
急傾斜地
地すべり危険区域
土石流
崩壊土砂流出危険区域
地すべり
山腹崩壊危険区域
道路防災点検・橋梁危険箇所
津波避難計画関係
道路防災点検箇所
津波浸水想定区域
橋梁の要耐震補強箇所
避難目標地点 避難限界範囲
橋梁の洪水時危険箇所
100 0 100 200 300 m

③馬門道・浜掛外地区（津波浸水想定区域）

最適な避難場所の確保

●野辺地中学校は危険区域外及び津波浸水区域外に立地しており安全

➡ 野辺地中学校は避難場所として適正

最適な避難経路の確保（津波発生時の避難経路）

●避難目標地点への経路
- 避難目標地点を4箇所設定
- 避難目標地点までの経路上に箇所危険箇所があるが迂回可能

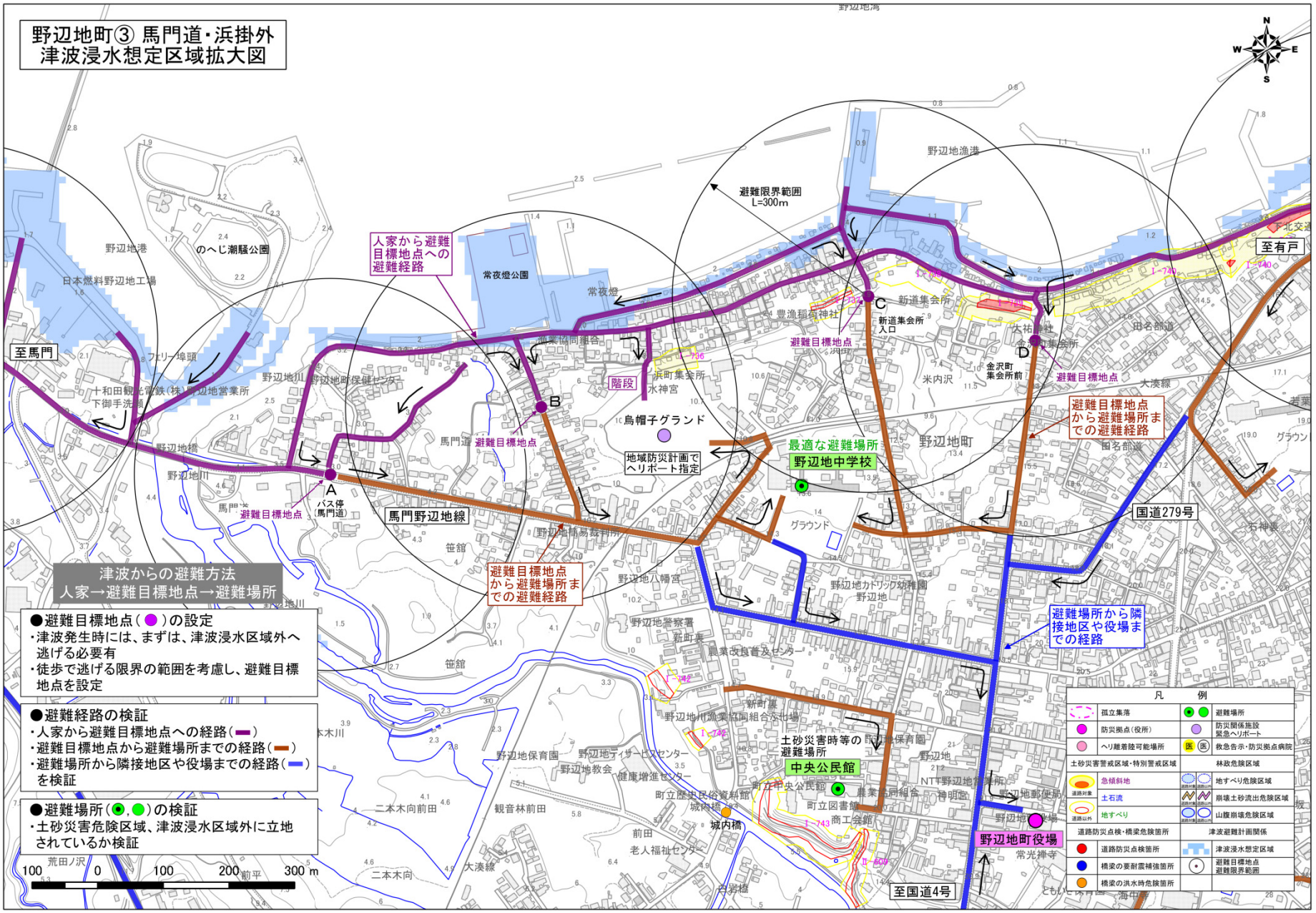
●避難目標地点から避難場所への経路
- 野辺地中学校への経路上に危険箇所はない

➡ 避難経路は確保されている

物資の輸送手段の確保

●当地区は孤立する恐れはないものの、野辺地中学校に隣接する烏帽子グランドが、野辺地町地域防災計画においてヘリコプター発着場所に指定されており、物資の輸送時にヘリコプターの利用が可能

野辺地町③ 馬門道・浜掛外 津波浸水想定区域拡大図



④田名部道外地区（津波浸水想定区域）

最適な避難場所の確保

●若葉小学校は危険区域外及び津波浸水区域外に立地しており安全

➡ 若葉小学校は避難場所として適正

最適な避難経路の確保（津波発生時の避難経路）

●避難目標地点への経路
- 避難目標地点を2箇所設定
- 避難目標地点までの経路上に、阻害する恐れのある箇所危険箇所があるが、道路寸断時は反対方向から避難可能
- 海水浴場からの避難は、階段も使用可能

●避難目標地点から避難場所への経路
- 若葉小学校への経路上に危険箇所はない

➡ 避難経路は確保されている

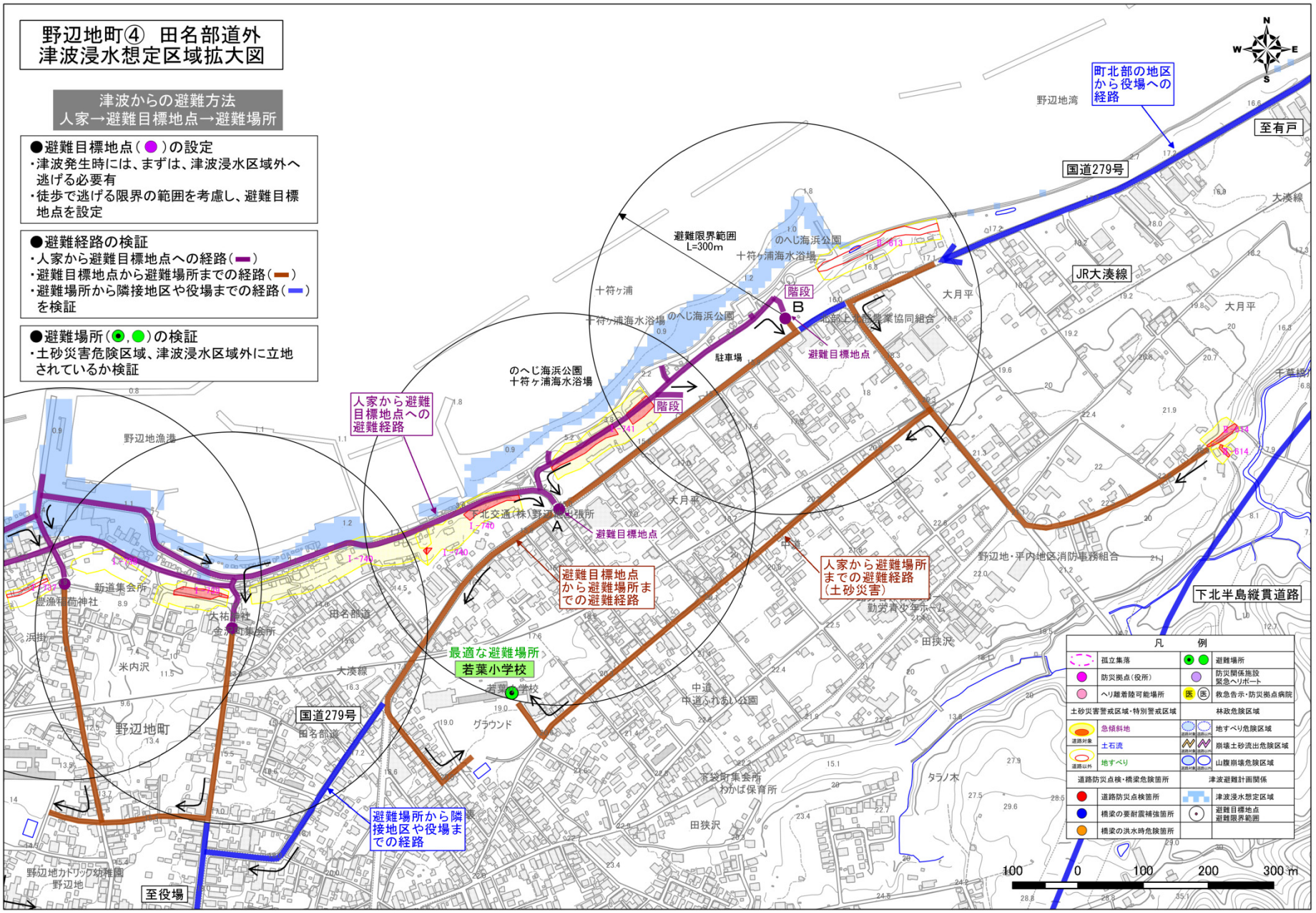
野辺地町④　田名部道外 津波浸水想定区域拡大図

津波からの避難方法
人家→避難目標地点→避難場所

●避難目標地点（●）の設定
- 津波発生時には、まずは、津波浸水区域外へ逃げる必要有
- 徒歩で逃げる限界の範囲を考慮し、避難目標地点を設定

●避難経路の検証
- 人家から避難目標地点への経路（▬）
- 避難目標地点から避難場所までの経路（▬）
- 避難場所から隣接地区や役場までの経路（▬）を検証

●避難場所（◉,●）の検証
- 土砂災害危険区域、津波浸水区域外に立地されているか検証



⑤有戸地区（津波浸水想定区域）

最適な避難場所の確保

●有戸地区学習等供用センターは、危険区域外及び津波浸水区域外に立地しており安全

➡ 有戸地区学習等供用センターは避難場所として適正

最適な避難経路の確保（津波発生時の避難経路）

●避難目標地点への経路
- 有戸川河口から津波が遡上することから避難目標地点を1箇所設定
- 避難目標地点までの経路上に箇所危険箇所はない

●避難目標地点から避難場所への経路
- 有戸地区学習等供用センターへの経路上に危険箇所はない

➡ 避難経路は確保されている

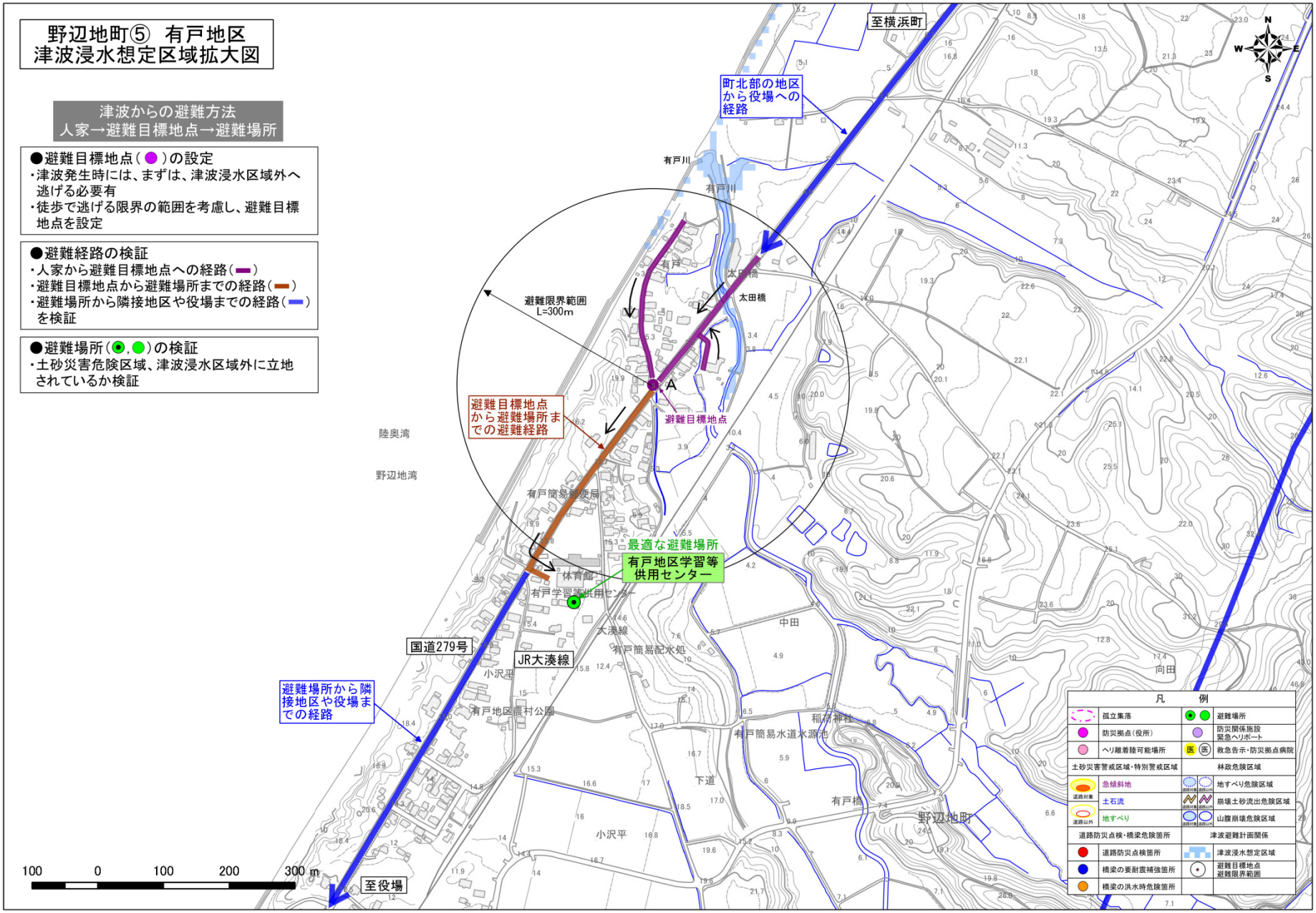
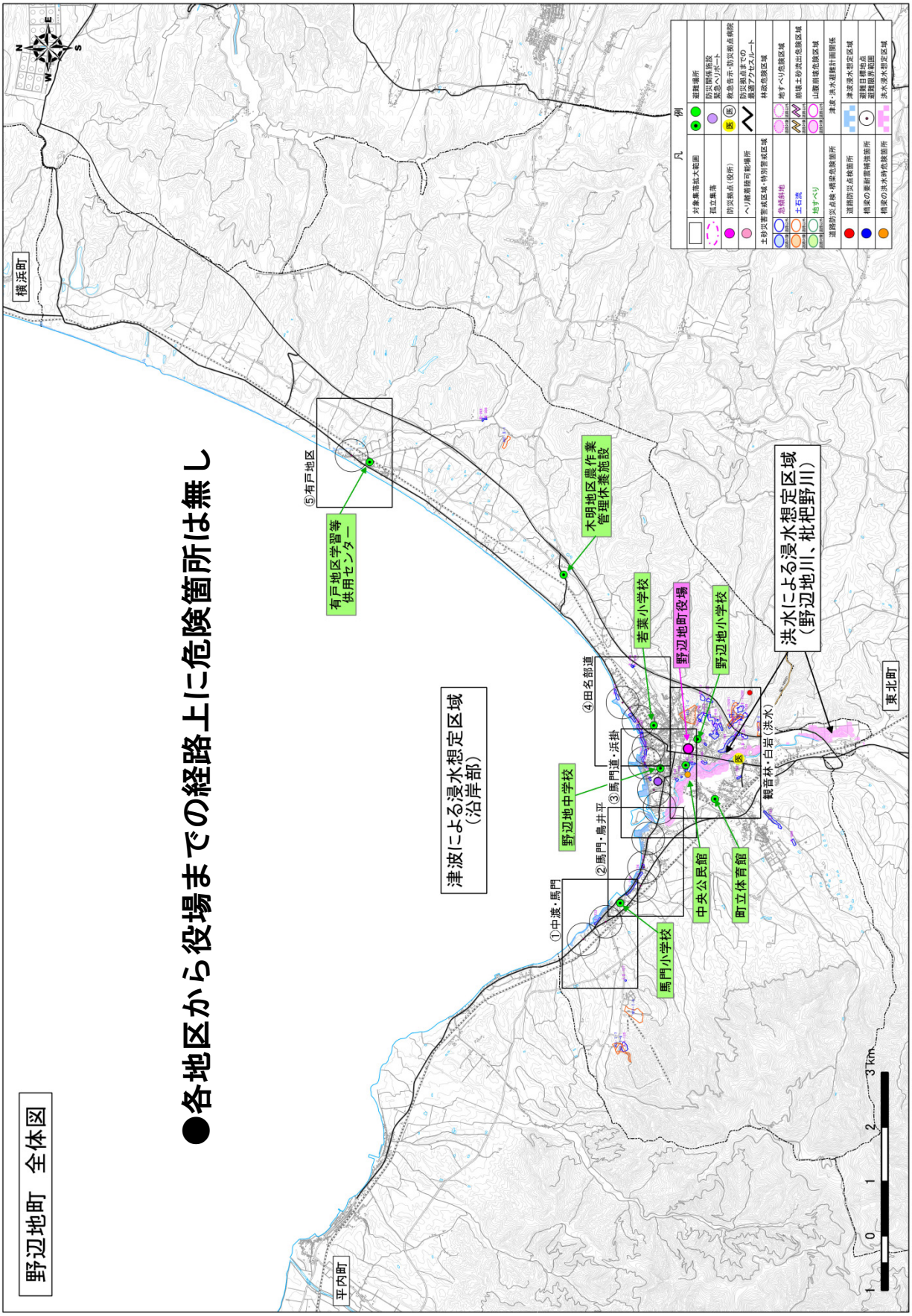
野辺地町⑤　有戸地区
津波浸水想定区域拡大図

津波からの避難方法
人家→避難目標地点→避難場所

●避難目標地点（●）の設定
・津波発生時には、まずは、津波浸水区域外へ逃げる必要有
・徒歩で逃げる限界の範囲を考慮し、避難目標地点を設定

●避難経路の検証
・人家から避難目標地点への経路（▬）
・避難目標地点から避難場所までの経路（▬）
・避難場所から隣接地区や役場までの経路（▬）を検証

●避難場所（⊙,●）の検証
・土砂災害危険区域、津波浸水区域外に立地されているか検証



各地区から役場までの経路